

■ 第三者意見

社会課題の解決。創業75周年を迎えるサンディンググループですが、ESG投資の観点や持続可能な開発目標(SDGs)を視野に入れた、新たな展開が期待できる報告となっています。新興国の発展や人口の増加に伴う環境・社会問題、食糧資源の安定的供給体制は、人が生きていく上で欠かせません。事業ポートフォリオの適正化により、サンデンの強みが再編成されましたが、自動車機器事業による次世代空調システムは、自動車や建機・農機メーカーでの環境対応と快適性の両立に貢献しています。また、第4次中期環境基本方針の目標達成に向けた、環境負荷低減をはじめとする継続した取り組みや、流通システム産業でのコールドチェーンのグローバル展開は、食品ロスの低減と併せて、まさにSDGsで挙げられた社会課題を解決する技術・製品開発への挑戦へとつながります。サンデンフォレストの社会的評価も、人々がよいかかわりを続けることで生物種が増加し、それが好事例として紹介されることで、まさに事業所を通じた共生への道筋を社会に示されました。

それから、社員に対する取り組みとしては、健康経営優良法人に認定され、重点施策のメンタル不調対応等、安全で安心して働ける職場を提供しています。グローバル人材の登用や、ダイバーシティにおいても、着実に結果を出していますが、障がい者や女性管理職の数と同時に、職務内容や誰もが輝ける施策になっているか等を紙面に反映することで、単なる数字からでは見えない実践の姿を共有できることでしょうか。

サンディンググループの継続的発展には、競争力のある材料・部品が不可欠とあります。グローバルに展開する企業として、G-CF会を通じた取引先との取り組みや、技術支援はもとより、サプライチェーン全体での共創活動の推進につなげるためにも、原材料の安定的調達の可能性と地球環境の自然・人的資源について、いかに継続が可能か、負荷の度合いを認識する必要があります。つまり、強みでもある「環境」を広義に捉え、豊かな自然環境を次世代に残しつつ、人権も含めて新たな環境マネジメントの在り方を再構築するには、ESG投資の観点からも絶好の時期にきているのではないのでしょうか。

今直面している社会課題から、その先に、特に海外拠点も含めて可能性のある倫理的配慮と、サステナブル生産・消費の実践をグランドデザインし、地域社会を支えながら、サンディンググループにしか描けない次世代に向けた事業展開や、ともに歩む姿を示されることを期待しています。



環境専門家 株式会社FEM代表取締役

山口 真奈美

研究所等を経て2003年FEM設立。持続可能な原材料調達や、サプライチェーンにおける環境社会的配慮に向けた基準策定・環境・CSR・生物多様性・国際認証&ラベルの研修、教育事業のほか、環境や社会に配慮した持続可能な国際基準を軸に、多岐にわたる認証を支援。(一社)日本エンシカル推進協議会 副代表理事、(一社)日本サステナブル・ラベル協会 代表理事ほか、様々な団体の活動にも従事。

第三者意見を受けて

株式会社FEM代表取締役の山口真奈美様には3年間にわたり、サンディンググループCSR報告書の第三者意見をいただきました。貴重なご意見とともに、今後の取り組みの方向性についてご示唆をいただき、御礼を申し上げます。

サンディンググループは、2017年に2020年度を最終年度とする中期経営計画を発表し、4つの柱からなる重点施策(P1)に取り組んでいます。サンデンの強みである「環境技術」については、グローバルに提供していくことに継続的に取り組み、今後も真摯に課題と向き合って社会に貢献してまいります。

2018年に創業75周年の節目を迎えたサンディンググループは、現在直面している社会課題に対して、第三者意見で示唆いただきましたサプライチェーンマネジメントをはじめ、SDGs、ESGの観点を視野に入れ、10年後、20年後を見据えて、バックカスティングでCSR経営をグランドデザインし、社会とともに持続可能な発展に努めてまいります。



執行役員 総務人事本部長

丸山 慎治